

## シイタケイベントレポ



戸田 博子

恒例のシイタケイベントが、2月15日(土)に行われた。寒さが続いていたので心配したが、青空が広がり、暖かく良い日になった。

佐保台小児童11名、佐保台関係者(保護者・幼児・佐保台スタッフ)22名、会員家族参加者2名合わせて35名の参加者となった。



開始時間で少し双方にズレがあったが、待ち時間に子どもたちは、遊びで楽しんでいた。

佐保台小学校代表の森兼さまの挨拶、千載会長のイベント内容の説明、山本里山リーダーの作業手順説明と段取り良く進み、9時40分菌打ち班と植樹班に分かれてスタートした。

ワイワイ言いながら、植樹場所に到着。

山本リーダーより、植樹の目的が説明された。「コナラやクヌギは80年位が寿命で、この山周りにある木は50~60年の木が多く枯れてきている。古い木は切り倒し、その代わりにドングリから育てた3年目の苗木を植える。それを今日してもらう」。

一家族2本ずつ植樹し、名前を書いたプレートを書いた紐で付けた。紐を結ぶのに慣れていないのか、苦心したようだ。



松林を観察しながら、菌打ち場所へ移動。ここでは、清原さんより、シイタケの栽培方法

が説明された。「2種類(原木シイタケ・菌床シイタケ)があるが、ここでは伐採したコナラの原木にシイタケ菌を打ち込んでいる」と子どもたちに解りやすく話された。

子どもたちは保護者と共に、2~3本の楢木に種駒を打ち込んだ。力の入れ具合が難しかったようだが、楽しんでくれたと思う。木槌の使い方を知らない子もいたようだ。

帰る途中、シイタケの栽培地に出ているシイタケをとり、2個だったがお土産が出来た。



11時40分には、各班とも元気いっぱいベースキャンプに帰って来た。暖かいので子どもたちはもっと遊びたそうだったが、午前のイベントなのでここで終了。

各家族、シイタケの楢木一本をお土産として渡された。持ち帰った楢木に、沢山シイタケができればいいなあと願っている。



参加者が少なくて寂しいかと考えていたが、その分丁寧な対応ができたように思う。2月のイベントとしては暖かく、事故もなくお世話する私たち会員も充分楽しんだと思っている。

(お世話をした会員は17名)

皆さま、ありがとうございました。